手を洗おう会 aphw　会報

Association for the Promotion of Hand-Washing

テーマ：環境に優しい未来の世界　タイの作品

＜　未来(みらい)の地球(ちきゅう)は緑一杯の大地、澄んだ海、生き物の天国だよ！　＞

第十版　２０１３年６月発行

―途上国の未来を背負う子供たちに勇気と希望と知恵を―

手を洗おう会 aphw　監事　白石正明

1937 年宮城県に生まれ、1961 年理系の学科を卒業致しましたが、就職難から専門違いの商社に就職、4 年間のマニラ駐在員の後、1971 年、出向社員として工業コンサルタント企業の創業に参加、以来同社の開発コンサルタントとして 2002 年まで 31 年間、更に（財）国際開発センターで 4 年間、（株）早稲田総研で 4 年間、一貫して ODA 業務（工業開発・地域開発を中心とする案件）に従事してまいりました。現在は、これまでの途上国における経験を基にミャンマーの村落開発のための起業を計画していますが、旧弊な行政組織、国民の民度の低さ等が障害となり遅々として事業展開が出来ません。

この度、古屋理事長に乞われて NPO 法人「手を洗おう会」の監事を引き受けいたしました。数多くの国内志向の NPO の中にあって、出口の見えにくい途上国の社会開発に関わる事業展開を目指す同 NPO の（特に古屋理事長の）「善意の勇気」に対し深甚なる敬意を表しつつも、その理念とテーマの難しさ故に果たして如何なるお手伝いが出来るだろうかと考える次第です。監事の主要な役割は会計監査と実施事業に対する助言と心得ていますが、個人的にはむしろ実施事業の促進に関する協力が私の過去の経歴からも適切であろうかと勝手に決めております。

当 NPO の活動を通じて、途上国の未来を背負う子供たちに勇気と希望と知恵を与えることが出来たらこの上ない幸せと考えます。相当の老齢ではありますが、悠々自適が性に合わないこともあり、微力をもってお手伝い申し上げますので宜しくお引き立て頂ければ幸甚です。

２０１３年会報目次

Ｐ１　：監事としての抱負　白石正明
Ｐ２　：理事就任のご挨拶　川初美穂
Ｐ３　：セネガル日記　野村舞衣
Ｐ４　：１０年を振り返って　宮澤陽子
Ｐ５　：セネガル活動報告　澤村さち子
Ｐ６　　同
Ｐ７　：ベトナム活動経緯　フオン・ラン・グエン
Ｐ８　　同
Ｐ９　：手を洗おう会　１０年の軌跡＆お知らせ
Ｐ１０　：子供絵画募集＆会費納入のお願い
Ｐ１１　：会計報告（２０１２年１月から１２月）

セネガル訪問日記

ハンガリー在住　　理事　　野村　舞衣

滞在日	２０１２年１０月２１日（日）深夜～１０月２４日（木）夜
場所	セネガル共和国ダガール市内
目的	ＡＰＨＷセネガル NPO の自立に伴い、過去１０年支援してきたリベリテサンク小学校でのセレモニー参加と視察。
参加者	古屋典子氏、野村　舞衣

２０１２年１０月２２日

（写真右からマムール氏、アヤッド氏、アゲレン氏、小辻氏、古屋理事、野村）

昨今のセネガル事情を日本大使館の二石公使参事官、高野一等書記官、河合書記官に伺う。イスラム教と民族の混合、民度の高さからも民主化が根付いている。韓国、中国企業直接投機が多い中、失業率５０パーセント以上が実態と伺う。夕刻、マムール会長アヤド会長補佐、イボンヌ・アゲレン氏（オランダ大使館勤務）小辻洋介氏（国際金融公社勤務）とセタレ・ハレ活動の公衆衛生習慣の普及に関して対談する。活動範囲を４校から拡大は必須と小辻氏から指摘される。イボンヌ氏が活動に協力下さると確約。

２０１２年１０月２３日

午前中、乳児孤児施設（最大３か月迄滞在後、養子縁組される）に１９８２年より助産婦として活躍のシスター玉木を表敬訪問する。昼、深田大使のお計らいにより来セ中の日本赤十字近衛会長にお目にかかり、東北震災直後対応真意、セネガルのトレンド、日本企業の役割など伺う。尚、古屋氏とンジャイ氏は午後セレモニー会場にて設営準備及びリハーサルを行う。夕刻、マムール会長、アヤドさんエマニュエル（日本大使館勤務）、ンジャイ氏と明日のセレモニーの打ち合わせをする。

２０１２年１０月２４日

（写真はパリへ招待した生徒のデモストレーション＆リベリテサンク校の子供達）

セレモニーはリベリテサンク校及び３校の校長先生臨席のもと子供達３０人程が参加し、紙芝居　手洗いの歌、デモンストレーション等が行われ、後日に地元ソレイル誌に掲載される。トイレの視察し修理が必要との判断がなされる。午後、青少年孤児施設を訪問。夕刻アヤド氏マムール氏エマニュエル氏に会い、支援の可能性のある企業への表敬訪問を提案する。

≪付言≫　「手を洗おう会」が目的とする水と衛生の問題は世界中が注目し真剣に取り組み続ける重要課題の一つである。２０１５年までに達成をと、掲げているミレニアム開発目標を通じても国際機関はこの課題に対し、事業、市民社会とのパートナーシップから解決を提案する。蛇口から綺麗な水を飲むことの出来る国に住むと理解しがたい課題ながら文殊の知恵と実践から会が今まで１０年かけて育まれた活動、今回現地でのＮＰＯ立ち上げ実現からも継続的また受益者拡大を考慮し意義豊かな環境を、と強く願う。

10 年を振り返って

会員　宮澤　陽子

「手を洗おう会」との出会いは今から 10 年前に遡ります。
札幌の、とある書店で何気なく手にした「四季のテーブルセッティング・パリの食卓から」という、とても素敵なテーブル関係のご本･･･これが古屋典子さんとの最初のご縁でした

　　ちょうどその頃、娘がパリに留学中で、私の心の中はいつも娘を心配する母親の自分と、娘の住んでいたセーヌ川沿いのパリの街が頭から離れない日々でしたので、本を手にした時の感動は今でも忘れることが出来ません。

　何か運命的な物を感じて、本に添付されていたハガキに感想を書き、まさかお返事を頂けるとは考えずに軽い気持ちでポストに入れました。
暫くして古屋さんからの直筆の素敵なお便りを頂戴し、その年の秋のウェスティンホテルでのパーティーへのお誘いのカードも同封されておりました。
その事が「手を洗おう会」に入るきっかけとなり、今日まで素晴らしいご縁が続いております事を、改めて感謝しております。
さて、「手を洗おう会」に参加して初めて海外での活動をご一緒させて頂いたのが 2005 年のハノイ（ヴェトナム）でした。市内の小学校や、かなり僻地の学校にも足を延ばし、紙芝居で手洗いの大切さを説明したり、持参した石鹸や洗面器で実際に手の洗い方を指導したり･･･と、手洗い支援活動を実施して有意義な時間を共有する事が出来ました。また様々な文化交流にも参加させて頂き、未知の世界との遭遇で感動の日々となりました。
そして昨年は会の 10 周年記念という事でパリにて素晴らしいイヴェントにも同行させて頂きました。古屋さんを中心に会員の皆様方の献身的な行動力を目の当たりにし、ボランティア活動というものを改めて考え、益々この先もお力になれたら･･･と決心した次第でございます。
私、普段は札幌に住んでいる為、なかなかお手伝いも出来ず心苦しく思っておりますが「いま自分が出来る事を出来る範囲で、そして出来る時には真心を込めて」･･･と常々考えております。
何事も一つの事を成し遂げるためのエネルギーは並大抵のものではありません。
時には不協和音も聞こえて来ることも有りましょう。
それでも、事を進め決断をしなければ行けない時、大きな改革も必要になって参ります。10 年目を一つの節目に、これからは若いパワーのある方々にもお力になって頂きながら、古屋さんを中心に益々この会が発展して行かれます事を心より祈念申し上げております。
微力ではありますが、私達母娘もこれからもお力になれます様に･･･と願ってやみません。

2013 年セネガル活動報告

トイレ環境改善の難関

―ケーブルカーでなく自らの足で頂上へ―

理事　澤村　さち子

前回のセネガル活動報告では、小学校のトイレの劣悪な状況をご報告しましたが、子どもたちは、そのような劣悪なトイレ環境で、実際どのように一日を過ごしているのでしょうか？無残なトイレの写真を目にしながら、そんな疑問が頭をよぎりました。

そこで、当会の支援先である元小学校校長、セタル・ハレ事務局長のママドウ・サンブ氏へ、支援校の生徒への聞き取り調査を依頼しました。今回の報告はその聞き取り調査結果からはじめたいと思います。

リベルテ・サンク小学校で、子供たちにとって特につらい一日は、授業が立て続けにある火曜日と木曜日。男子生徒アマドウ・ジャロさんは、同級生を代表し、トイレの状況を語ってくれました。彼にとってトイレは、一応使用できるものであるけれども、暗く、悲惨な場所。女生徒の場合、問題はさらに深刻です。ファトウ・ファルさん曰く、扉が閉まらず、女生徒たちは学校外で用をたすことを強いられています。

ファス・パイオット小学校でも同様の問題に直面し、そこでは特に水不足に悩まされています。当校のトイレ使用はまったく不可能なため、子どもたちは、学校周辺の隣家で用を足し、教職員も休憩時間を利用してやはり隣家でトイレを借りています。他のいくつかの小学校においても同様で、トイレは閉鎖。学校で用を足せないため、学校終了時刻の前に、仕方なく下校する生徒の姿も珍しくないといいます。

子どもたちが安心してトイレに行けず、勉強にも集中できないこの状況は、もちろん教職員や保護者の間で、ずっと問題視されてきました。しかしトイレの問題はいっこうに解決されていません。なぜでしょうか？正直、この問題はこのままでは解決されるのは難しいであろうと感じています。それは、当事者たちはこの状況を自らの手で改善させようと思っていないように私の目には映るからです。

各学校を訪問し、インタビューして下さったサンブ氏の報告の最後の言葉にもそれはあらわれています。「校長先生をはじめ、教員、生徒、保護者が支援の手を差し伸べてくれることを待っている」と。このような他力本願では奇跡が起こらぬ限り、何も変わらないでしょう。

本会の今後の海外支援活動における課題は、ハード面での支援におわらず、ソフト面での支援にも力を入れていくことです。文化・習慣の違いから、日本の考え方、やり方をそのまま理解してもらうことは難しいことです。現地式に適応させる必要があるでしょう。

現在、日本のトイレ清掃習慣を現地に導入してもらおうと手を洗おう会からセタル・ハレへ呼びかけを行っております。学校でトイレ掃除の習慣を持たないセネガル人にとって、それはかなりハードルの高い作業です。それでも「セネガルの子どもたちが安心して入れる清潔なトイレ環境を作りのために日本のトイレ清掃法を写真やビデオなどで紹介してほしい」と、先日セタル・ハレの理事長から申し出がありました。

決して問題に関心がないわけではなく、どうにかしたいという彼らの気持ちは強いのです。支援の手を待っているということ、それは自分たちの前にそびえる山があまりにも高すぎて、ケーブルカーで登る手段しか頭に浮かばず、いつかケーブルカーが出来るのを待っているようなものです。私たちは、ケーブルカー以外の手段、つまり自分の足でも着実に一歩一歩山を登ることが可能であることを彼らに示さなければなりません。

リベリテ・サンク校の使用不可の１２のトイレ（２０１２年１０月現在）

当理事会では、水分野のエキスパートである高松監事の有益な助言を元に、まずはリベルテ・サンク小学校において、パイロット的に独自の資金を用いてプロジェクトを実施し、維持管理も含め成功した段階で、他校にも活動を広げ、結果が出た時点で、在セネガル日本大使館へ草の根無償援助を申請するようセタル・ハレに提案しました。その提案は理事会で受け入れられ、現在、企業から資金集めをおこなうため、セネガルで話し合いが進められています。

ぜひ日本のトイレ清掃習慣をセネガルに普及するために、日本の会員の皆様からもご意見、アドバイスお待ちしております。

ベトナムの「手を洗おう会」の活動及び経過

２０１２年１１月　　オランダ在住　フオン・ラン・グエン

きっかけ

2000 年の夏、私は　国際赤十字会の仕事を受けて、「友好村」（施設）と「平和村」（施設）を訪問する日本人団体のために通訳として働きました。

「友好村」は、「ベトナム戦争」に参戦した 5 カ国のベテラングループにより、和解の目的で建てられました。ベトナムでは、中部から南部まで枯葉剤が多量噴霧され、直接戦争に参加しなく、その地方に住むことだけでも枯葉剤の被害者となり、第二世代、第三世代の被害者が生まれ続けています。政府の統計によると、2000 年時点に　全国で約１５０万人の枯葉剤被害者の子供がいました。施設（村）の子供たちは、　非常に貧乏な家族から選ばれ、親の健康状態が悪く、兄弟たちも　被害者であるのが共通点です。

この子供たちにとって、自分の病状が治されるわけもなく、自分の家族の条件も改善されるわけもないのです、私は自分に何が出来るのか問い続けました。私は毎週　果物やおかずを買って、村の子供たちを訪ねて、歌や踊りを教えたり、一緒に遊んだり、先生たちを手伝ったりしました。

日本の手を洗う会　ベトナム支部での活動経過

2005 年古屋　典子さんと日本の手を洗う会の皆さんにハノイでお目にかかった時、私は　手を洗う会の活動に非常に関心を持ち、ベトナムで広げたいと思いました。「友好村」と「平和村」で始めたいと皆さんに提案して、合意を受けました。それから、「友好村」、「平和村」とハノイ近辺にあるいくつかの幼稚園と小学校（バッザン小学校、リエウザイ幼稚園、サダン不自由者学校）に　毎年一回か二回石鹸とタオルを持って、行く先々の施設の先生たちの協力を受け、子供たちに手を洗い方と頻度について指導を行ってきました。2006 年末　私がアメリカに移住するようになりましたので、母が、それ以降　私の代わりに、手を洗う会の活動を引き継いでいます。毎年、私は　計画を立て、予算申請を日本の手を洗う会に送って、承認と資金を受けとったら、母は、各学校と施設とのアポをとって、手を洗い支援の準備をします。まず、石鹸、タオル、紙芝居と絵画材料と子供の賞品を持っていって、現場で先生たちと一緒に子供たちの手洗いを指導してきました。
また、トックギェム小学校のＰＴＡと一緒にトックギェム小学校の学生と親さんを「友好村」に紹介して、交流活動を行いました。これは、手を洗う会の計画以外のことだったので、手を洗う会の予算を使わずに、コックギェム小学校の負担で行われました。

活動から勉強したこと

１．子供たちにとって、手を洗う理由と頻度について紙芝居や簡単な話を聞かせると、すぐ覚えることがわかりました。そして、見知らない人に指導されると、あんまり聞かなく、毎日子供たちと接している先生たちから言われると効果が高いのです。だから、各施設の先生たちの協力が大事だと思っています。

２．絵画コンテストについて、子供たちは　非常に熱意を持って、参加してきました。日本の子供達の絵を展示したことがありましたが、ベトナムの子供たちは、外国子供たちの絵にとても興味がありました。また各施設の職員と訪問者にとって、手を洗う会と協力の動機にも繋がりました。手を洗う会は　今後　各国の子供たち同士で　交流の機会を作れば　もっと　参加の動機を増すことが出来るのではないかと思います。
３．絵画コンテストは　子供の夢などを表す素晴らしいことですが、みな描けるわけではないし、みなが積極的に手を洗う活動に参加を奨励するためには　参加賞として衛生材料などを寄付する方がいいし、このことは　会の趣旨にも適します。
４．「平和村」と「友好村」だけでは、同じ子供たちが数年も滞在するので、手を洗う活動の普及に限界があります。今後は　引き続き、トックギェム小学校ともう一校の学校など一般の小学校を対象にして、手を洗う活動を行えれば、より効果が拡大することを期待できると思います。

今後の計画

手を洗う会のベトナム活動支援の中止があった場合、ベトナムでの活動に大きな影響を与えると思います。これまでに母が私のイデアに基づいて、手を洗う会のベトナム活動を実行しています。石鹸、タオル及び絵画材料を購入して、学校を訪問して、手を洗う指導を行って報告をしました。そういう意味で、私は企画者で、母は実行者です。
ベトナムの手を洗う会の自立について、考えたことがありますが　会の自立と持続発展に関しては、基本的には資金を調達する役割と活動実行・報告をする役割の人材が必要です。この人材は、手を洗うことが必要だと自覚して、その活動を拡張するだけではなく、ボランテアの仕事を愛して、その時間を確保できることが必要です。母は　引き続き　会の活動実行・報告を継続することが出来ますが、会の資金調達役割を担う人材が必要です。
ベトナムでは、働いている皆さんは、生計を立てることで一杯です。定年者の皆さんは、時間があっても、ネットワークと金銭的は余裕がなく、資金調達の可能性に限界があります。ベトナムに住む外国人と海外に住んでいるベトナム人は、ベトナムに駐在しないとなかなか会の活躍に参加できないのが実態です。学生を対象にして考えたこともあります。これから、周りを引き続き探して見ますが、関心を持つ方が出るかどうか未知数です。私は、手洗い活動にかかわって七年目ですが、今後もオランダからの支援という制限はありますが、支援活動を続けていきたいです。ベトナムの子供たちが、手洗いの習慣化を促進できるよう、できるだけ早く、ベトナムに「手と足」になってくれる人材を見つけたいです。具体的な案は決めていませんが、その方々には石鹸を支援するだけではなく、子供たちへ手洗いの意識を高めてもらうように現地で活動してもらえたらと願ってっています。

手洗いは健康を保持するには大事なことです。どのようにこれを一般社会に広め習慣化してもらえるか、日本の会員の皆さんにも是非、考えてもらえたらと思います。
以上です。

―手を洗おう会　１０年の軌跡―

理事関係者　　敬称略

セネガルでの活動

２００２年　セネガルでグエノラ・サンバと共に発足　２００２年１１月　東京にて本部を創立
２００４年　２００５年　２００６年　２００７年に山田、飛鳥、山本、位田、澤村
村上、フローランス・ドゥボウさん、古屋他でセネガル視察
＊尚高松氏には　毎年子供の絵を搬出、賞品などを搬入してもらい現在に至る
２０１０年　５月　澤村支援校視察、８月　フローランス・デゥボ―さん訪セ
２０１１年　東京本部がＮＰＯ登記した為、高松氏持参の賞品が、税関にてスムーズに
通過可能となる　青年協力隊中川幸恵さん一年間の手洗い衛生要請完了
２０１２年　４月　セネガルのマムジャーラちゃんとハディム君をパリへ招待　話し
合いをし、母校に対し手洗い指導をしてもらうよう依頼　１０月に野村、
古屋が訪セ　自立した手を洗おう会―“セタレ・ハレ”のイベントに参加
２０１３年　３月に高松氏が訪セし、レベルテサンク校のトイレ視察により東京理事会
において手洗い教育指導と同時にトイレ修復計画を検討中

ベトナムでの活動

２００４年から２００６年　毎年訪越　内野、森、石井、宮澤、堀江、前田、南、飛鳥、山田、古屋他が
参加　グエン・フオンさんが支部長を引き受ける（２００７年からはフオンさんの母親が代行）
２００１０年から２０１１年　青年協力隊の岩井久根さん海老原優さんへ支援金：一年間、当会へ協力義務
２０１２年１２月　オランダにて今後のベトナム活動を話し合った結果、支部の増員を検討

フランスでの活動

２００５年　２００６年　森、永石、堀江、村上、飛鳥、内野、石井、古屋等が訪仏し文化交流活動をする
２００７年から２０１１年　飯野蓉子さん、小城清美氏、新井輝美さんらの協力で、毎年絵画が募集される
２０１０年　９月　アラン・ブ―レ氏宅にて絵画展と日本舞踊の披露に志賀、西浄が参加
２０１２年　４月　ブローニュの森での「日本月間」に絵画他当会の活動写真を１か月展示し、４月末には
日本から３０名、フランス他から２３名が参加し、沢山の方々の協力のもと、舞踊、歌&ピアノ、
着物、折り紙など様々なジャンルの日本文化を紹介

南アフリカでの活動

２００６年　タウンシップに出かけ手洗い現状を調査し、五つの学校と施設で手洗い指導を実施
２００７年から２０１０年　松丸教江さん、小沢志津子さん他が絵画送付や衛生教育に協力

日本での活動

２００２年１１月　内野、山田、石井、古屋で「手を洗おう会東京」を
発足し、翌年４月　ワッド大統領夫人訪日・本部として設立
２００３年より２０１１年　毎年、支援金を募る為祭典を催す　また文化交流の
一環として子供絵画を展示し、会員へ向けて会報を作成する
＊講演会として高松章二氏　前田恵美子さん　磯村尚徳氏　ンジャイ恵美子
さん　生駒芳子さん等を講師として迎え、グローバルな話しを伺う
＊文化活動としてヴァイオリン　カンテレ　二胡　ピアノ　三味線と端唄、
弦楽四重奏など音楽会を開催
２０１１年　ＮＰＯ申請し、５月１１日特定非営利活動法人として認可される
１１月　東北被災地、葦の芽幼稚園を山本准教授ら１１名で慰問
２０１２年４月まで　パリの絵画展（１か月間）や日本文化紹介の為の準備
６月　ＪＩＣＡ地球広場（本年閉館）で子供絵画展（一週間）を開催

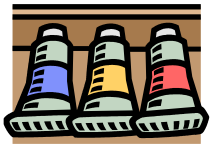
お知らせ

＊７月１２日（金曜日）ウィメンズプラザで　１８時から２時間　　山田　雅章博士（プリストン大学プラズマ研究所フエロー）による講演会「宇宙プラズマ未来のエネルギー源、核融合」があります。　　宇宙の悠久の営みに思いを寄せましょう。
＊秋には税所篤快（さいしょあつより）氏による開発途上国の子供教育に関する講演会を予定しています。
＊事務局より　　新入会員の申し込やご質問等は事務局の星直代（０３－３２６７－６７９９）へファックスでお願い致します。

2013年度 第10回　子供絵画募集

昨年に引き続き当会の主題である「手を洗おう」という
タイトルで募集することになりました。本年もセネガル、ベトナム、フランス、タイ、インドネシアそして日本などの小学生から楽しい絵を募集しています。

対象　：セネガル、ベトナム、フランス、タイ、インドネシア、日本などの小学生
題　：「手を洗おう」



画用紙サイズ：八つ切（Ａ３も可）
画材　：色鉛筆、　絵具など何でも可
締切日　：2013 年 10 月 31 日（木曜日）

子供絵画の問い合わせ先:
樋口　愛　メール－：ailovebeugue@1999.jukuin.keio.ac.jp
電話：090 - 4841-3443

会員の皆様へ
２０１４年度の会費納入のお願い

いつも「手を洗おう会 aphw」へのご支援ご協力に感謝いたします。

年会費　：　３，０００円
振込み先　：　ゆうちょ銀行

郵便局から振り込みの場合
記号：１００６０　番号：１０３８４３６１
口座名　：　トクヒ）テヲアラオウカイアピュー

他銀行からの振込みの場合
店番号　：　００８
口座番号　：　普通預金　１０３８４３６
口座名　：　トクヒ）テヲアラオウカイアピュー

＊　年度会員確認のため、１２月１５日までにお振込みをお願いいたします。
＊　領収書が必要な方は、下記担当までご連絡下さいませ。
連絡先:佐藤里美　メール：sucremisucre@gmail.com

＊募金＊　「手を洗おう会」では石鹸や洗浄液などを東北被災地やベトナムの学校等に寄付する募金及びセネガルトイレ改修資金を募っております。一口 500 円から受け付けております。
ご協力をお願い申し上げます。

２０１2年度　　特定非営利活動に係る事業　　会計収支計算書

２０１2年 1月 1日　から　２０１2年 １２月 ３１日まで

特定非営利活動法人
手を洗おう会　aphw
（単位:円）

科目	金額		
（経常収支の部）			
Ⅰ　経常収入の部			
1　会費・入会金収入			
会費収入(年会費3,000円×75名)	225,000	225,000	
2　事業収入			
(4)　国際協力事業に関する事業費			
ア　展示会や絵画展の開催事業収入	5,800		
イ　文化講演会事業収入（邦楽と洋楽交流会）	129,454		
(5)　生活環境改善教育および国際協力に関する普及啓発事業に関する事業費			
事業活動収入（パリ・文化バザーなど）	142,385	277,639	
3　寄付金収入			
寄付収入（カルチャー・技芸の享受）	255,898		
寄付収入（日本理化学工業他）	41,320	297,218	
4　その他の収入			
利息収入	1,441	1,441	
経常収入合計			801,298
Ⅱ　経常支出の部			
1　事業費			
(1)　衛生に関する生活環境の改善支援事業	230,204		
(4)　国際協力事業に関する事業費	312,991		
(5)　生活環境改善教育および国際協力に関する普及啓発事業費	446,632		
(6)　その他、この法人の目的を達成する為に必要な事業	466,564		
事業費計		1,456,391	
2　管理費			
ア会場賃貸費	8,500		
イ通信運搬費	41,630		
ウ印刷製本費	9,620		
エ事務用品費	25,088		
オ交通費	38,000		
カ雑費	56,541		
管理費計		179,379	
経常支出合計			1,635,770
経常収支差額			-834,472
（正味財産増減の部）			
Ⅴ　正味財産増加の部			
1　資産増加額			
当期収支差額（再掲）			
2　負債減少額			
前受金（会員会費2013年度55人分）	165,000		-165,000
増加額合計			
当期正味財産増加額（又は減少額）			-834,472
前期繰越正味財産額			8,810,166
当期正味財産合計			7,810,694

上記、2012年度の会計収支計算書を監査結果、妥当かつ正確であることを認めます。

2013年3月11日　NPO手を洗おう会aphw 監事　白石正明　　印

＊2013年度の会費納入は10ページをご覧ください(この会報は2013年度会費納入の皆様に配信しております)

事務局から:決算後の交通費や謝礼の返還分は、東北被災地へのタオル&石鹸寄贈とさせて頂きました。

2013年6月　　会報担当　北島桂子